

# HIV 感染者における慢性胃炎の免疫学的評価に関する研究

研究責任者 東京大学医科学研究所附属病院感染免疫内科

安達英輔

私たちは HIV 感染症に伴う免疫状態の変化と慢性胃炎の関わりやピロリ菌感染との関連を調べるために当院に保存してある試料を用いて以下の研究を行なっております。

- ① 異粘膜組織を用いた CD4 陽性 T リンパ球や樹状細胞などと呼ばれる免疫系細胞の遊走に関する生体分子(ケモカインレセプターや接着分子、炎症性サイトカインや増殖因子)に対する免疫染色を行います。
- ② リンパ球膜表面の接着分子発現の評価やヘリコバクター・ピロリ菌に対する特異的な免疫応答の検討を行います。
- ③ 大分大学医学部環境予防医学講座との共同研究により、異粘膜検体から、胃内に共存していると考えられる微生物由来の遺伝子を抽出、増幅し、胃の微生物叢を調べる実験を行います。

この研究により HIV 感染者に対する慢性胃炎の効果的なマネジメント方法を確立したいと思っています。

## 1. 研究の対象となる方

- ① 東京大学医科学研究所附属病院病理部において病理組織が保管されている方(1986 年～2014 年 4 月)
- ② 「HIV 感染症における免疫応答の研究」(承認番号 20-47-210521)にご参加いただいている方(2008 年 4 月～2014 年 4 月)
- ③ 本研究に参加、異粘膜検体を東京大学医科学研究所附属病院検査部もしくは感染免疫内科に保存している方(2014 年 4 月～2016 年 7 月)

## 2. 研究に用いる資料

当院に保存してある診療情報(カルテ情報、検査結果等)に加え、以下の試料を用います。

- ① 東京大学医科学研究所附属病院病理部において保存されているパラフィン包埋病理組織。
- ② 当研究所及び国立感染症研究所エイズ研究センターに保存されている末梢血単核細胞。
- ③ 上記 1.③の期間に採取した胃粘膜検体

## 3. 外部への試料・情報の提供

上記の③の異粘膜検体については感染性物質の輸送規則に関するガイダンスに準拠した方法で大分大学医学部環境予防医学講座へ輸送します。診療情報については必要最低限な情報を匿名化した上で、電子的配信等により特定の関係者以外アクセスできない状態で伝達します。対応表は個人情報管理者が保管、管理します。

#### 4. 研究期間

2014年4月9日（所長許可日）～ 2019年3月31日

#### 5. 研究組織

本研究全体の代表機関 東京大学医科学研究所附属病院感染免疫内科 安達英輔  
本研究の分担機関 大分大学医学部環境予防医学講座 城戸康年  
国立感染症研究所エイズ研究センター 立川愛

#### 6. 研究参加の辞退について

試料・情報が本研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

#### 7. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。  
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

問い合わせ先および研究への利用を拒否する場合の連絡先

東京大学医科学研究所附属病院 感染免疫内科

安達英輔

〒108-8639 東京都港区白金台 4-6-1

TEL:03-5449-5338, FAX:03-5449-5427

E-mail: e-adachi@ims.u-tokyo.ac.jp